



ご存知 ですか？

薬剤師② 調剤室紹介



薬剤部には、前回ご紹介した調剤室の他に薬務室、薬品管理事務室、医薬品情報室、製剤室があります。その中から今回は製剤室の業務をご紹介します。

主たる業務は治療上必要な薬で市販されていない薬、検査薬などを医師の要望により作成する事です。

一日の仕事の流れ

午前

- 病棟、外来で使用する薬の作成(製剤)の依頼を受けます。また、患者さま個別の薬を作成するための依頼も受けます(製剤依頼)。
- 緊急に必要な薬を作ります(製剤をします)。
- 午前中は、主に注射剤(抗癌剤、食事の出来ない方のための高カロリー輸液、その他治療のための注射剤)の調剤、調整を他の部屋の薬剤師6名と共に行います。

午後

- 病棟、外来から製剤を依頼された薬を作ります。
- 依頼される薬は、滅菌など製剤に時間がかかる特殊なものが多く、そのために午後のもっともまった時間に作業することになります。
- 患者さまの処方箋により、調剤室で小分けにして用いられる軟膏や吸入のお薬、特殊な坐薬なども大量に作ります。

14:00以降は、担当業務の他に化学療法薬の調整も製剤室の担当者が対応します。また、製剤の合間を縫って、担当病棟にて服薬指導を行います。

製剤室の仕事をもっと少し具体的にお話します

院内で使用される院内製剤には、皮膚科で使用する軟膏類やパッチテスト用軟膏(体に貼ってアレルギーを調べる薬品)、眼科外来のレンズクリーナー、内視鏡室で使用する消泡剤、放射線科で使用する皮膚インク、手術室で使用する特殊な薬品などがあります。

できるだけ市販品に切り替えるよう努力していますが、市販されていない品もあり、化学療法の副作用による口内炎予防のためのうがい薬など、患者様向けに処方される薬もその都度調整しています。現在、コンスタントに作っているのは滅菌製剤、点眼剤、内用散剤、液剤、軟膏、吸入液、坐剤など。その他それぞれの科の要請に応じて作成することもあります。軟膏は大量の場合は礮塊機(らいかいき)を、少量の場合は乳鉢を使用します。滅菌の場合、クリーンベンチ、高圧蒸気滅菌機を使用します。

また、IVH室内、化学療法調整室内に持ち込む物品の供給、滅菌、リターナブル滅菌瓶の洗浄、乾燥なども手掛けています。



●軟膏を詰めています



●礮塊機(らいかいき)



●高圧蒸気滅菌機

(薬剤部 製剤室 林 万起子)